

## 【引用するときの書き方】

### 例1)

〇〇〇(〇〇年、p, 〇)は「・・・引用部分文章(参考にしている文献と同じま  
まの文章)・・・」と述べられている。

→著者名、発行年、引用ページ、引用部分を示すこと。

### 例2)

・・・引用部分文章内容・・・・・・・・・・(〇〇〇、〇〇年、p, 〇)

→引用部分文章を示し( )内に著者名、発行年、引用ページを明記する。

※論文本文の中で引用している文献は、論文末に(参考文献)明示します。

## 【参考文献の書き方】

### 例1)

日本語の場合、著者名、論文名・本のタイトル、発行所、発行年を示し、本のタ  
イトルは『 』内に書く。

〇〇〇〇『 』△△△、・・・年。→著者名、著書名・本のタイトル、発  
行所、発行年の順。

### 例2)

日本語論文の場合、著者名、論文名、論文タイトル、雑誌名、雑誌の巻・号、発  
行年、ページを示す。

論文名・論文タイトルは「 』内、雑誌名は『 』内に書く。

〇〇〇〇「 』『 』第△巻、第△号、・・・年、pp. 〇-〇。

→著者名、論文名・論文タイトル、雑誌名、巻、号、発行年、ページ数の順。

## ぶんかくコンテスト テンプレート①

同じ文章に次のようなスタイルを用いて付注することもできます。このスタイルは文系分野中心に、使用されています。この場合、Wordの参考資料タブから脚注の挿入ボタンを用いて注をつけます。このWord機能は注番号の変更を自動で行ってくれるので、大変便利なお勧め機能です。参考資料一覧 (bibliography) は、別途、巻末／文末に著者名50音順 (アルファベット順) に並べます。

例)

自動車の走行において、周辺環境 (自然風や他車の影響など) により、受ける空力特性の変化は、操縦安定性に影響を及ぼし、運転時の不安定要素となる。近年の自動車は、ASV (先進安全自動車) 技術の実用化が進んでいる。その技術の一つであるACC (アダプティブ・クルーズ・コントロール) 搭載車両が高速道路において他車を追い抜く際、本研究のような二台の速度差が少ない状態での追い抜き状況が増加するものと予測される。また、日本の高速道路ではトンネルや切り通しが多いため、車両は横風を受けやすく、車両の走行が不安定になり非常に危険である。したがって、横風を受ける近接走行時の空力特性の解明は重要である。しかし、横風を受けない複数車両の近接走行時の空力特性に関する研究<sup>1</sup>はよく知られているが、横風の影響を考慮した複数車両走行時の空力特性の研究は数少ない<sup>2</sup>。また、風を受ける建造物まわりの流れについても多く行われている。たとえば、注体群回りの流れの研究<sup>3</sup>などがあるが、建造物本体の振動などを考慮するなど、本研究のような自動車走行時の扱いとは大きく異なる。

### 参考文献

加藤義和, 西川弘造, 「複数走行時の自動二輪の空力特性」, 『自動車技術論文集』, vol. 32, No. 4 (2002), pp. 139-144

自動車技術大会編, 『自動車のデザインと空力技術』 (自動車技術会, 1991), pp. 29-63

自動車技術大会編, 『自動車技術ハンドブック 基礎・理論編』 (自動車技術会, 1991)

炭谷圭二, 前田和宏, 一之瀬健一, “自動車と流体力学: 車体周りの流れと空力特性”, 『ながれ』, Vol. 23, No. 6 (2004), pp. 445-454

---

<sup>1</sup> 自動車技術会編, 『自動車技術ハンドブック基礎・理論編』 (自動車技術会, 1991), pp. 202-203, 及びWolf-Heinrich Hucho, *Aerodynamics of Road Vehicles* (Butterworths, 1987), pp. 223-234参照。

<sup>2</sup> 加藤義和, 西川弘造, 「複数走行時の自動二輪車の空力特性」, 『自動車技術会論文集』, vol. 32, No. 4 (2002), pp. 139-144; 自動車技術会編, 『自動車のデザインと空力技術』 (自動車技術会, 1991), pp. 29-63; 炭谷圭二, 前田和宏, 一之瀬健一, 「自動車と流体力学: 車体周りの流れと空力特性」, 『ながれ』, vol. 23, No. 6 (2004), pp. 445-454。

<sup>3</sup> 高森浩治, 西村宏昭, 谷地義人, 岡崎充隆, 「2棟の高層建築物の空力相互作用」, 『日本建築学会大会学術講演概要集 (関東)』 (2001), pp. 173-174; Appupillai Baskaran and Ahmed Kashef, “Investigation of air flow around buildings using computational fluid dynamics techniques”, *Engineering Structures*, Vol. 18, No. 11 (1996), pp. 861-875。

---

高森浩治, 西村宏昭, 谷地義人, 岡崎充隆, 「2棟の高層建築物の空力相互作用」, 『日本建築学会大会学術講演概要集 (関東)』 (2001)

Appupillai Baskaran and Ahmed Kashef, “Investigation of air flow around buildings using computational fluid dynamics techniques”, *Engineering Structures*, Vol. 18, No. 11 (1996), pp. 861-875

Wolf-Heinrich Hucho, *Aerodynamics of Road Vehicles* (Butterworths, 1987)

■どのようなスタイルであっても、著者名、論文名／書名、出版社、出版年 (分野によっては月日も必要)、掲載ページ、Web記事ならURLと参照日を記載する事が原則と言えます。気軽に他者の文章を借りてくることは控え、研究倫理にのっとった大学生にふさわしい文章を書いてください。

■参考文献・引用について、文中では数字を赤字で記載していますが、実際に作成するときは文字色を変更する必要はありません。

## ぶんかくコンテスト テンプレート②

引用・参考文献明記方法（日本機械学会のテンプレートに準じる）

例)

自動車の走行において、周辺環境（自然風や他車の影響など）により、受ける空力特性の変化は、操縦安定性に影響を及ぼし、運転時の不安定要素となる。近年の自動車は、ASV（先進安全自動車）技術の実用化が進んでいる。その技術の一つであるACC（アダプティブ・クルーズ・コントロール）搭載車両が高速道路において他車を追い抜く際、本研究のような二台の速度差が少ない状態での追い抜き状況が増加するものと予測される。また、日本の高速道路ではトンネルや切り通しが多いため、車両は横風を受けやすく、車両の走行が不安定になり非常に危険である。したがって、横風を受ける近接走行時の空力特性の解明は重要である。しかし、横風を受けない複数車両の近接走行時の空力特性に関する研究<sup>(1), (2)</sup>はよく知られているが、横風の影響を考慮した複数車両走行時の空力特性の研究は数少ない<sup>(3)~(5)</sup>。また、風を受ける建造物まわりの流れについても多く行われている。たとえば、注体群回りの流れの研究<sup>(6), (7)</sup>などがあるが、建造物本体の振動などを考慮するなど、本研究のような自動車走行時の扱いとは大きく異なる。

- (1) 自動車技術会編，自動車技術ハンドブック基礎・理論編，(1991)，pp. 202-203，自動車技術会。
- (2) Wolf-Heinrich Hucho, Aerodynamics of Road Vehicles, (1987), pp. 223-234, Butterworths.
- (3) 加藤義和，西川弘造，“複数走行時の自動二輪車の空力特性”，自動車技術会論文集，Vol. 32, No. 4 (2002)，pp. 139-144.
- (4) 自動車技術会編，自動車のデザインと空力技術，(1991)，pp. 29-63，自動車技術会。
- (5) 炭谷圭二，前田和宏，一之瀬健一，“自動車と流体力学：車体周りの流れと空力特性”，ながれ，Vol. 23, No. 6, (2004)，pp. 445-454.
- (6) 高森浩治，西村宏昭，谷地義人，岡崎充隆，“2棟の高層建築物の空力相互作用”，日本建築学会大会学術講演概要集（関東）（2001），pp. 173-174.
- (7) Appupillai Baskaran and Ahmed Kashef, “Investigation of air flow around buildings using computational fluid dynamics techniques”, Engineering Structures, Vol. 18, No. 11, (1996), pp. 861-875.

■引用・参考文献を明示するときは、例のように該当箇所に数字や記号等を記入し、原稿最後のページに数字、記号ごとの引用・参考文献元を明示する。

■参考文献・引用について、文中では数字を赤文字で記載していますが、実際に作成するときは文字色を変更する必要はありません。